



あらすじ

20xx 年。大学教授が人間を自由にコントロールできる腕輪を使い、学生たちを次々と言いなりの奴隷にしていった。

最初は陸上部部長の山田、同じ研究室でレスリング部の亮、そして亮の親友でレスリング部の琢磨、、、。

奉仕、開発、アナニー、露出、亀頭責め、潮吹き、あへ顔、お仕置き、撮影、玉責め、軽メッシー、変態オナ、便器化、緊縛、後輩や彼女の前での晒し、エロレス、軽スカ、種壺化等、、、羞恥と屈辱の中でおとされていった、、。

主な登場人物

田代（大学教授）：腕輪を開発。サディスト。がっちりとした体型。

斉藤琢磨（主人公）：3 年。レスリング部部員。友達思いの情に熱い男。175 cm 筋肉質であっさりとした顔立ち。亮を脅しに使われ自ら腕輪を装着し、奴隷堕ちした。奴隷名シロ。

木村亮（琢磨の親友）：田代の「身体心理学研究室」の学生で、琢磨と同じレスリング部。無邪気な性格。180 cm 筋肉質で男らしい顔立ち。奴隷名クロ。腕輪は外されたが教授の奴隷のまま。

山田俊樹（亮と同じ研究室の先輩）：陸上部キャプテン。人から自然と好かれるタイプ。最初の実験体。奴隷名ポチ。腕輪は外されたが教授の奴隷のまま。

西田：他大学レスリング部部員。琢磨と試合で何度か戦ったことがある。SNS に投稿された琢磨の痴態を見て、琢磨だと気づき、教授にお金を払い琢磨及び亮を陵辱、玩具にしている。

黒田：亮を公園のトイレで犯した 100 kg 越えの巨漢。亮に執着していた。

貫徹

最近亮が大学にあまり来ておらず、話す機会がめっきり減ってしまった。会ったとしても何を話していいのか分からないが、あいつといるだけで安心する自分がいた。

山田と同じように腕輪を外した姿を見たときは衝撃だった。監督をうまくだしぬいて外したのだろうか、、、いや、、それならまっさきに自分に言うてくるはず、、、きっと山田のように、、、。

亮に聞いてしまったら何かを失ってしまうような気がして聞けずにいた、、、。

自分は腕輪を外されることがあれば絶対に2人みたいにはならない、、亮の目を覚まさせて、、、最初の目論見通り、、俺は、、意志を貫いてやる、、、、、、、、。

教授が運営している SNS に新作の動画が公開され、もしかして亮か、、！？と思いながら見ると、例の後輩達だった。最初は琢磨と亮をノリノリでいじめていたのに、教授を脅したことで、教授に腕輪をはめられたあの後輩達だ。

二人は外国人と思われる二人組にアナルに腕をぶちこまれ、絶叫している。英語で「変態豚」等と罵られながら、涙を流しながら笑っている姿はすでに人間ではないように見える。

何度も何度も腕を出し入れされ、腕を抜かれると、二人の赤色の直腸が外側に露出してしまっている。

「はあ、、はあ、、はあ、、たじゅげで、、ぐだじゃい、、うう、、あ、、、あ、、うう、、。反省、、してます、、反省、、してましゅ、、、おゆる、、し、、くだ、、しゃい、、、。」

どうやら後輩達はまだお仕置きの途中のようだ。それだけ教授を怒らせてしまったのだろう。二人の言葉を無視し、その外国人たちは再度腕で二人のアナルをおかし、二人を失神させてしまっていた、、、。

(、、ご主人様は、、本当に、、すごいな、、、)

そんなことを思っていると、教授から呼び出しがはいる。

教授の自宅に着くと、いつもどおり禪一枚になり土下座で挨拶をする。部屋に通され、蟹股で頭の後ろで手を組みペニスをびくつかせている琢磨の乳首をいじりながら教授は琢磨とキスをする。

ちゅぱちゅぱちゅぱ、、ちゅぱちゅぱちゅぱ、、、ちゅぱちゅぱ、、、。

「う、、、ん、、、う、、、ん、、、あ、、、、う、、、。」

教授に大事にされているようで暖かくて、嬉しくて、でもくやしい。そんな琢磨を教授は今まで入ったことのない部屋に案内し、そこにある人間を蟹股、万歳のような格好で拘束する角度調節機能式の椅子のようなものに琢磨をのせる。四肢を椅子につながれた琢磨はまるで解剖前のカエルのようだ。

「動画は見たかい？」

「はい、、確認しました。」

「どうだった？」

「はい、、、やつらにふさわしい罰だと、、思います、、、。」

「そうじゃないよ、あんなことをされる男を見て、どう思った？」

「、、、すごく苦しそうで、辛そうで、、、ですが、、、あの理不尽なプレイに少し興奮を覚えました、、、。」

「素直じゃないか。あいつらには確かにお仕置きとしてあたえているがね、それは知らない相手に無理やりやられた場合だ。自分の敬愛する相手に自ら望んでされたら、それはご褒美だと思わないかい？」

「、、、はい、、、。」

琢磨は教授のその先の言葉が怖くてふるえている。それでもペニスは相変わらず上を向いている。

「お前にご褒美をやるよ。嬉しいだろ。」